箱根町景観施策推進会議第 11 回会議　次第

日時：平成 23 年 11 月 7 日（月）
　　13：30 分から 16：00 まで
場所：分庁舎 4 階　第 7 会議室

1　あいさつ

2　議題

⑴　小田急箱根環境デザインガイドブックについて

⑵　箱根町公共サインガイドライン素案について

⑶　その他

箱根町景観施策推進会議第 11 回会議　資料目録

議題２　箱根町公共サインガイドライン（素案）…資料 1

※議題 1 の資料については、小田急箱根ホールディングス(株)にて用意されたもので説明された。

日　時	平成 23 年 11 月 7 日(月) 13 時 30 分から 16 時 00 分まで	場　所	分庁舎 4 階　第 7 会議室
出席者	会議メンバー：7 名(2 名代理出席、1 名欠席) オブザーバー：箱根町景観まちづくりアドバイザー　田邉氏、古河氏 小田急箱根ホールディングス㈱　今井氏、杉森氏、鴻野氏 都市整備課：太田課長、勝又主任主事、竹村主事		

特記事項

<小田急箱根ホールディングス㈱の講義>

小田急箱根ホールディングス㈱から、小田急グループが町内にサインを掲出する際の「小田急箱根環境デザインガイドブック」を作成したと情報提供があり、そのガイドブックにおける先進的な取組みを庁内においても広く周知したいとの話があった。

箱根湯本駅改修においては、サインが統一され、シンプルでありながらサインの利用者にとって非常に分かりやすく、「箱根らしさ」も大いに表現されており、そのような取組みを職員へ紹介し、より公共サインの在り方について認識を深めるために、小田急箱根ホールディングス㈱から講義をしていただくことになった。

<会議の公開>

景観施策については、各課の協力を得て全庁的に推進する必要があり、施策に係る庁内の情報共有と職員の景観知識の向上を図るため、本会議は公開として開催した。今回で会議の公開は、2 回目に当たるが、今後も適宜会議の公開を実施することとしたい。

※傍聴者　5 名（健康福祉課 1 名、都市整備課 1 名、上下水道温泉課 1 名、生涯学習課 2 名）

議題、会議概要等

1　小田急箱根環境デザインガイドブックについて

小田急箱根ホールディングス㈱営業統括部チーフマネジャー今井義徳氏から、「小田急箱根環境デザインガイドブック」について、作成にあたっての経緯や理念について講義していただいた。

<概要>

1　箱根の現状
2　小田急グループの役割
3　交通ネットワークの問題点
4　箱根全体最適な、新ブランドの開発・導入
5　まわりやすい箱根、わかりやすい箱根の実現

以上について、パワーポイントを使用し講義された。

2　箱根町公共サインガイドライン素案について

景観まちづくりアドバイザーである田邉学氏、古河正己氏も交え、箱根町公共サインガイドライン素案（前回会議で議論された内容を踏まえ修正したもの）について、出席者全員で協議した。

<協議結果>

景観まちづくりアドバイザー、メンバーから修正するべき事項や用検討事項などの意見が出された。事務局にて再修正し、次回会議までに示すこととした。

3　その他

次回会議の日程調整をした。

箱根町景観施策推進会議　第 11 回会議　会議録

議題	**⑴　小田急箱根環境デザインガイドブックについて** **講師：**小田急箱根ホールディングス㈱ 営業統括部チーフマネジャー　今井　義徳 氏
講義の内容 （ 今井 氏 ）	**<講義内容>** **1　箱根の現状** 都心からのアクセスが良いこと、豊かな自然、温泉、歴史的・文化的施設が観光地としての箱根の強みであり、交通ネットワークも充実しています。登山電車、ケーブルカー、ロープウェイ、海賊船等の多様な乗り物がネットワーク化されており、それら乗り物自体が観光資源でもあります。 バスの運行本数も他の観光地と比較してもかなり多いです。しかしながら、それら多様な乗り物がある箱根エリアの交通情報はわかりにくくなってしまっているため、周遊しにくいという弱みもあります。 近年の箱根の観光客数は、リーマンショックや本年の東日本大震災発生等の不安定な社会情勢により、大きな打撃を受けてきました。箱根エリア各社の交通事業も、観光客数の減少に大きく左右される状況にあります。 また、観光客数の減少要因として、箱根ブランド自体の低下や、余暇の多様化といったことが考えられます。 **2　小田急グループの役割** 箱根が旧来の観光地としてのブランドを復権させていくためには、「箱根全体最適な視点」「役割分担の明確化」「同じベクトル（方向性）」この３つのポイントを箱根観光業に携わる全事業者で取組むことが大切だと考えています。 その中で、小田急グループの役割としては、「箱根エリア内の〝足〟として観光拠点をスムーズに結ぶこと」「乗り物自体が観光資源であるので、移動を楽しんでもらう空間を提供すること」「主に首都圏から箱根へより多くの観光客を送客すること」等ではないかと考えます。 小田急グループの箱根交通ネットワークは、ロマンスカーを始め、バス、登山電車、ケーブルカー、ロープウェイ、海賊船と多様であり、それら乗り物で箱根を周遊できる「箱根ゴールデンコース」があるのですが、有機的に統合されていない部分もあり、周遊のスムーズさに欠け、旅の情緒を阻害している面が問題であると思います。 **3　交通ネットワークの問題点**

平成16年にアンケートを実施した結果、「バス路線が複雑で分かりにくい」「乗換えが分かりにくい」「駅がきれいでない、係員の対応が良くない」等のご意見が寄せられました。

これまで、駅の案内サイン等はグループ各社が独自のルールに基づき整備し、サービスを提供してきました。その結果、案内サインのデザイン、表示方法がバラバラになる、情報が無秩序に氾濫する、グループ企業としてのイメージが形成されないなどの問題があり、観光客にとっては移動がスムーズでなく、旅の情緒が感じられず、ストレスを溜めてしまうことになりました。

一つの事例として、平成16年当時の箱根湯本駅は、営業看板や提供する情報が無秩序に氾濫しており、観光客が瞬時に必要とする情報を把握することができませんでした。観光客をお迎えする箱根の玄関として役割不足な部分がありました。

4　箱根全体最適な、新ブランドの開発・導入

これら問題を解消するために、交通ネットワークを有機的に連結させる空間デザイン（ロゴ・カラー・案内サイン等）計画を策定し、案内サインの統一化を推進することとしました。

新しいデザインについては、グループ各社それぞれが融和した「箱根」の象徴とすること、箱根の情緒とお客様をお迎えする〝こころ〟を表現し、意味・思想のあることに重きを置いて、作成していきました。

計画の骨子としてカラー、デザイン、書体を統一するだけでなく、表記も統一することとしました。表記というのは、例えば、施設情報です。統一前は、「お手洗」は「お手洗」「お手洗い」「トイレ」「便所」など表記が各社・各事業所等によって異なっていたものを分かりやすくするために統一しました。また、会社名にしても、「箱根登山鉄道」と「箱根登山電車」ですとか、「箱根観光船」と「箱根海賊船」等表記が異なっていた会社ロゴをそれぞれ各社の商品をアピールするため「箱根登山電車」「箱根海賊船」と統一することとしました。

また、グループとしてのブランドを高めるため、サインだけでなく、印刷物なども統一しました。逆に車両や制服類はそれぞれの特性・個性をだしていくために、あえて統一はしませんでした。グループとしての統一性を保ちつつ、それぞれの個性を活かせるデザインを目指したのです。

そのデザインの詳細についてですが、宣伝（営業）デザインではなく、「お客様をお迎えするデザイン」をコンセプトに、「趣味」ではなく「意味」、「連想」ではなく「思想」を表現するために「寄木のこころ」をデザインの根幹としました。そのデザインは「大人の

	薫りのするデザイン」「明日への光を与え続ける暖色系カラー」「自然と歴史の共生」を主なポイントとしています。 　デザインを普及していくために、ブランド管理するためのマニュアルも策定しました。マニュアルには、デザイン・ロゴ・書体等の原型、各社が導入するためのサインデザイン展開基準の策定、外国語表記に関する基準も加えました。マニュアルに基づき、各駅等の看板の変更を随時行い、お迎えする駅としての情緒感を表現しています。 　また、看板類だけでなく、グループ誌や名刺等もマニュアルに基づいて変更し、グループとしてのブランドを高めています。 **5　まわりやすい箱根、わかりやすい箱根の実現** 　これらデザインにより効果的な情報提供をすることで、箱根を周遊する観光客の円滑な誘導をするとともに、魅力的な沿線景観を演出し、箱根観光の阻害要因を減らし、まわりやすい箱根、わかりやすい箱根の実現に一歩前進させることができたのではないかと思います。 　旅行は、全行程がトータルで評価されます。箱根観光において重要な役割を担う、交通ネットワークの顧客満足度が向上すれば、箱根旅行の全体の魅力アップや箱根エリアの価値創造につながり、しいては、観光地箱根としての魅力向上につながるのではないでしょうか。 **<傍聴者の感想>** ◎　会社のイメージと箱根のイメージのバランスが、非常に良く取れていると感心した。 　日本人向けの書体と外国人向けの書体の選び方について、メリハリを付けるよう配慮されていて、高いクオリティーを感じる。 ◎　ここ数年、箱根を周遊しているが、年々サインが変わっていたり、駅舎が変わっていたりしていたので、今回の講義を聴いて、どのような経緯で変更されたのかが実感できた。 　この前、小田急の駅で財布を落とした時の駅員の対応が非常によかった。そのような対応も、サインの整備同様にバックボーンでの教育が行き届いているのだと感じた。 ◎　寄木のデザインを上手く使っている。注意喚起するサインもクリーム色とオレンジ色などを使っていて、禁止の意味も柔らかい感じで統一されている事などの色々な配慮に感心した。 ◎　今の箱根湯本の駅でない、以前の箱根湯本駅を知らなかったが、数年前に初めて、観光客として箱根湯本の駅に来た時に、小田急線から箱根登山線に入った瞬間、急に看板が統一されているのに驚き、ここから違う世界なのだと、観光客の立場として感じることができた。 　現在、サインを掲出する立場になったが、旅先でのお客さんはチョッ

	トした変化でも感動することもあれば、ガッカリすることもあると思う。小田急グループの新しいサインの取り組みの経緯に非常に感心した。 ◎　宣伝看板を駅舎内に掲出していた時には、広告収入があり、それらを撤去することで広告収入が減ったと思うが、収入を確保する部署と、景観を守る部署との葛藤について非常に興味を持ちました。
議題	**⑵　箱根町公共サインガイドライン素案について**
事務局からの説明 （勝又主任主事） （竹村主事） 資料１	前回会議の協議結果を踏まえ、事務局が修正した「箱根町公共サインガイドライン(素案)」について、変更点等を事務局が説明した。
協議	事務局の説明後、景観まちづくりアドバイザーである田邉学氏、古河正己氏も交え、箱根町公共サインガイドライン素案（前回会議で議論された内容を踏まえ修正したもの）について、出席者全員で協議した。 **<田邉氏からの意見等>** ◎　サイン作成にあたっての“ブレ”を作らないことや、ベーシックな部分を統一させることに関して、一つのマニュアルとして良くまとまっている。 　しかし、「箱根らしさ」の表現方法や、観光客に対してより良いイメージを持ってもらうには、どのようなサインを掲出していくのか…と言った、前向きな点をもう少し取り入れていったほうが良いと思う。 ◎　書体の例のところで、ゴシック体の中でも太いものがある(ファミリーフォント等)ので、そのような書体も採用するとよい。見出しなどで使用するフォントとして、どうしても必要になってくる。 ◎　色彩について、茶色を基調にするのであれば、その基本中の基本である“こげ茶色”などの数種類の色は、フォントを詳細にを決めたように色を決めて示してしまうほうが分かりやすく、サインを統一していくには有効である。 ◎　ピクトグラムについて、ＪＩＳ案内要図記号を原則使うよう記載されているが、矢印についても同様にＪＩＳ案内要図記号で定められているので、矢印も例として入れたほうが良い。矢印のように繰り返し使われるものが統一されていると、サインデザインの統一感を高めるのに非常に有効である。 　また、ロープウェイやケーブルカー等といった、箱根の独自性を表現できるようなピクトグラムもあるので、あえてそのようなものを例で挙げておくと、箱根らしさがガイドラインに少し出てくるのかと思う。 ◎　それぞれの立場で見方が違うが、観光客の立場から見ると、「○○○

	してはいけない」といった、禁止事項の看板が多く目につくと、あまり心地良いことではない。日頃、生活している人の視線と、観光している人の視線があるので、そのバランスを図っていくことも重要である。 　サインの設置場所も重要であり、観光客の目に触れたくないものであっても、生活している人々にとっては必要なものであるので、いかに観光ルートから、逸れた場所に設置するかも大切である。 ◎　茶色や緑色のような限られた色の中でも、明度差だけでなく彩度を上げることでサインを目立たせることができる。 　注意喚起看板の場合は、彩度をこの程度まで使える…その他のサインは、ここまでの彩度で抑えて使うという部分を具体的に示したほうがよい。 ◎　鎌倉市の禁煙サインは、赤を使用しているが、真っ赤ではなく少し抑えた赤を使っており、それを見ると「鎌倉だから…」と、サインの色彩に配慮していることに気づく。そのように、チョットした配慮でファンは増えていくのだと思う。 ◎　「箱根らしさ」を表現していくには、企業ロゴのように、サインにおける「箱根町」のロゴを統一するだけで、かなり統一感が高まると思う。 ◎　その他、サインの表示方法等について詳細に指示・説明があった。 **<古河氏からの意見等>** ◎　公共サインをポップ体の書体などで表示すると、民間事業者の掲出しているサインのようなので、ゴシック体で統一したほうが良い。 ◎　トイレの表記などは、今後、外国人観光客の増加も考慮し、ピクトグラムを優先して表記する等のルールを作り、その横に説明を記載するほうが分かりやすい。 ◎　対象が限定されているような注意看板は、サインを掲出するよりも対象へ周知すればすむことで、むやみにサインを掲出する必要もなくなる。 ◎　外国人観光客に対しても分かりやすいピクトグラムを作成し使用することを勧める。 ◎　注意喚起看板は、何を禁止するのか分かりやすくすると良い。文書で長く説明し注意するのではなく、「〇〇禁止」や「〇〇注意」といったように、見出しだけでも意味が分かるようにしたほうが、効果があると思う。 ◎　環境課から出た意見のように、住民の訴えによってサインを掲出するようであると、エスカレートして様々な訴えがサインになって氾濫してしまうのではないかと危惧される。 ◎　小田急ホールディングスが作ったサインを町が多く引用すると、せっかく築いた小田急ホールディングスの企業カラーが、ぼやけてしまうの

	で、町は町の「収益団体とは違う」というスタンスでガイドラインを整備したほうが良いと思う。 ◎　サインを掲出する媒体の素材選び及び適切な維持管理で、劣化をかなり防ぐことができる。サイズや材質の規格をある程度統一することで、低コストで作成することもできる。 ◎　「箱根らしさ」を統一するならば、箱根の自然等に由来する色彩を基本カラーとする等の工夫が必要なのではないか。 ◎　その他、サインの表示方法等について詳細に指示・説明があった。 **<小田急ホールディングス㈱からの意見等>** ◎　町が掲出するものということで、書体の基本はゴシック体になると思うが、先ほど田邉先生がお話されたように、字を目立たせるためには太いゴシックも必要なので、我々の会社でも「太い・普通・細い」と使うようにしており、書体が無い場合は購入して使用している。箱根町でもその点を検討してみてはいかがか。 ◎　文字の間隔が、ギュッと詰まりすぎると何を書いているか分からなくなる。観光地という点で、文字と文字の間隔を空けて分かりやすくするのが良いと思う。 ◎　我々の使っているピクトグラムは、交通エコロジー・モビリティ財団という国交省の外郭団体が作成しているピクトグラムを使用し、箱根に合うように色を変えて使用している。例えばトイレだと「青と赤」を使用しているところを「こげ茶と赤茶」というように変更している。そのような少しの変化を入れてみるのも良いと思う。ロープウェイと海賊船については、新しいピクトグラムを作って使用している。そういうものを箱根町のガイドラインで上手く活用できるようであれば、活用しても結構である。 ◎　社内で新しいサインを作成する際には、その都度サインの担当部署と調整するようにしている。 **<メンバーからの意見等>** ◎　注意看板に関して、「生命や身体に被害や景況が及ぶ恐れのあるもの」だけで、色彩を規制するのは無理があるのではないか。広く注意等を訴えかけるものについては、色彩についてもっと寛容にサインの統一をしていくべきではないか。〈環境課〉 ◎　注意看板に関して、例えば、犬の糞害に関するものは、被害者側の訴えを受けて「行政が何もしてくれない」という意見を解消するために、掲出している部分もある。 　訴えてくる方々は、できるだけ目立つ看板を望んでおり、景観に配慮することよりも、とにかく目立つように掲出することにより、納得して

	くれる感じである。しかし、一方的に目立つようにしても景観的におかしくなるので、その点のバランスを取っていきたいと思う。〈環境課〉 ◎　注意や禁止のサインは、赤などの色を使い、視覚的な部分でも抑制したほうが効果あると思う。茶地に白字だと、よく読めば注意・禁止していることは分かるが、パッと見て注意・禁止されていることが分かりにくい。〈環境課〉 ◎　観光課が掲出するサインの中では、ハイキングコースの誘導版が多いのだが、臨時で掲出するものもあり、紙パウチで掲出するものがどうしても多くなってしまう。そういった状況で、サインが散乱してしまっているのが現状であるので、「紙パウチは使用してはいけない」等の文言をガイドラインに入れてみてはどうか。〈観光課〉 ◎　町独自のものとして、色やマークなどで町が掲出しているものだと一目で分かるようなものを考えたら良いのではないか。〈生涯学習課〉 ◎　財務課が掲出するサインは、短期間なものが多いので、紙パウチで作っているものが多い。そして、注意喚起するものが多数を占めるので、赤などの色も使ってしまうが、先ほどから出ているようにガイドラインで明るさなどを規定することで、作成する側はそれを活用していけるのではないか。〈財務課〉 ◎　管理台帳を作成するにあたり、既に設置済みのサインまで管理するのは、事務分量的に無理がある。〈財務課〉 ◎　「箱根らしさ」を盛り込んでいくという話になると、この場の職員だけで話していくのは難しいと思う。他で、箱根町・湯河原町・熱海市の1市2町を交流圏として、自立型多言語看板を整備しているが、そこでの意見などを参考にして、一目で「箱根を訪れた」という感じのサインを作れたら良いと思う。〈企画課〉 ◎　サインを美しい状態で保つため維持管理をする上で、もう少し維持管理方針を具体的に示したほうが良い。〈都市整備課〉
議題	**（3）その他**
	次回も、今回出席いただいた2名の景観まちづくりアドバイザーに出席を依頼し日程調整をした。 両アドバイザーの日程等を考慮し、12月13日(火)、14日(水)、15日(木)のいずれかの日に、開催することとなった。正式な通知については後日、事務局からすることとなった。